

令和8年度第1回障スポ Connect 記録

日時 令和8年9月18日（金）午後2時から4時

場所 府中市役所おもや2階会議室A201及びオンライン

出席者 別添資料1（出席者名簿）のとおり

1 出席者自己紹介

資料1に沿って自己紹介及び各団体の取組紹介（記録省略）

2 体操（ダンス）動画の作成について

令和6年度及び令和7年度の検討経過について事務局から説明し、動画の活用ニーズや具体的な活用場面、制作方法等について意見交換を行った。

◆事務局

- ・これまで、5分程度の長さ、座位・立位の双方に対応すること、音楽を取り入れること、楽しみながら参加できる内容とすることなどの意見があった。
- ・監修、制作方法、予算、協力体制、制作後の活用方法など整理すべき事項が多く、具体的な制作には至っていない。制作を前提とせず、動画のニーズや具体的な活用場面から意見を伺いたい。

◆障害者福祉関係団体（カンタービレ）

- ・休憩時間などに使用する可能性はある。
- ・軽スポーツ大会でダンスを実施した際、障害の程度によって参加のしやすさに差があったため、一つの内容にまとめることは難しいのではないかと。
- ・イベントで共通の動画を流すことができれば、施設内でも取り入れやすい。
- ・選手などが出演すれば一体感が生まれる可能性があるが、制作の難易度は高い。盆踊りのように、イベント前の練習にも使用できる内容が考えられる。

◆府中市立心身障害者福祉センター

- ・活動前にラジオ体操や既存の体操動画を使用しているため、決まった動画があれば活用する機会はある。
- ・利用者によってできる動きが異なるため、難易度を統一することは難しい。簡単な動きや音楽を取り入れた内容は利用しやすい。

◆事務局

- ・市だけではダンスや体操に関する専門知識が十分ではなく、制作する場合は専門家等へ協力を依頼する必要があると考えている。他団体における制作方法を伺いたい。

◆東京都障害者スポーツ協会

- ・外出が難しかった時期に、職員がフリー素材を使用して体操動画を制作した。
- ・音楽の権利処理などの制約があり、職員のマンパワーだけで制作することには限界がある。

◆東京都パラスポーツ課

- ・他自治体では、地域のアーティストや運動指導者の協力を得て、事業の関係者や当事者が出演するオリジナル動画を制作した事例がある。
- ・全員が同じ動きを正確に行うことを目標とするのではなく、踊る、音楽に合わせて動く、見るだけなど、様々な参加方法がある。

◆事務局

- ・既存の市の体操や盆踊りは、必ずしも障害のある方向けに作られたものではない。障害のある方も参加しやすい内容とするには、健康運動の専門家から動きについて助言を得る方法が考えられる。
- ・トップチームとの連携や、制作後の学校及び事業所での活用方法も併せて検討する必要がある。
- ・トップチームに、動画制作時に可能な協力内容を伺いたい。

◆障害者福祉関係団体（ケアチーム大芽）

- ・既存動画で対応できる面もあり、現在、施設が動画不足で困っている状況ではない。
- ・市独自の曲や動きがイベントで繰り返し使用されれば、参加者の共通体験や一体感につながる可能性がある。

◆東京サントリーサンゴリアス

- ・長期間使用することを考えると、選手は退団や移籍により使用できなくなる可能性があるため、マスコットの出演が適しているのではないかと。サンゴリアス君であれば簡単な動きが可能であり、他チームのマスコットも含めた出演は協力できる可能性がある。

◆アルバルク東京

- ・選手がダンスを行う撮影は、事前のレクチャーや選手の稼働負担があり、実現のハードルが高い。動画の冒頭や最後に選手のコメントを入れる形であれば実現可能性がある。マスコットは普段から踊る動画をSNSに掲載しているため、選手より可能性がある。

◆F C 東京

- ・F C 東京も選手の稼働はハードルが高い。マスコットについても出演費用が発生するため、予算との調整が必要である。

◆事務局

- ・動画は令和8年度中の制作を必須とするものではない。本日の意見を踏まえて検討を継続し、必要に応じて改めて障スポ Connect の議題として相談する。

3 本年度のスポーツ教室について

(1) 中高生向けサッカー教室

◆事務局

- ・9月12日のサッカー教室では、小学生向けは18人の申込みに対して14人が参加した。一方、中高生向けは1人の参加で、例年も1人から3人程度である。

- ・市ホームページ、市公式LINE、特別支援学校へのチラシ配布、放課後等デイサービスへの周知を行ったが参加者が少ないため、周知だけでなく、内容や実施方法が中高生の実情に合っているか意見を伺いたい。

◆東京都立府中けやきの森学園

- ・学校内にサッカー部があるため、サッカー教室を知らずに参加していない可能性がある。
- ・学校から各家庭へ案内を配布することは可能であり、友人同士で参加できれば参加のハードルが下がる可能性もある。ただし、それにより参加者が増えるかは分からない。
- ・障害のない高校生との試合では、チームとして差が出る可能性があるが、個人では一定のレベルでプレーできる生徒もいる。
- ・部活動に所属せず、運動が苦手でボールを蹴る経験が少ない生徒もいるため、そのような生徒も受け入れる内容であればニーズはあると考える。

◆事務局

- ・教室は障害の有無を問わず参加でき、初心者も楽しめる内容としている。一方、実際の参加者には十分に動ける子どもも多く、教室の設定と参加者のレベルが合っていない可能性がある。学校のサッカー部に所属する生徒の競技レベルについて伺いたい。

◆障害者福祉関係団体（ケアチーム大芽）

- ・未経験の子どもに経験させたいという保護者の意向は、年齢が低いほど強い可能性がある。中高生になると本人の意思が強くなり、保護者が連れて行くことも難しくなるのではないかな。
- ・年齢で小学生と中高生に分けるのではなく、経験の有無等で分ける方法も考えられる。

◆東京都障害者スポーツ協会

- ・中高生向け教室に、成人も参加できるようにしてはどうか。

◆事務局

- ・対象を「中高生以上」として成人にも広げることは、課題解決の一つとして考えられる。
- ・成人向けには、作業所等連絡協議会を対象としたサッカー教室を実施しているが、会場まで来ることが難しい方もいる。現在の実施方法が参加しやすいものになっているか、意見を伺いたい。

◆障害者福祉関係団体（カンタービレ）

- ・作業所向けの教室は年1回である。作業所に所属する人が中高生以上の教室にも個人で参加できれば、特別支援学校で部活動をしていたが、卒業後に続ける場所がない人の機会にもなる。

◆東京都立府中けやきの森学園

- ・本格的なクラブに入るほどではないが、部活動としてサッカーを楽しんでいた生徒は、卒業後に活動が途切れている可能性がある。

(2) 作業所等連絡協議会向けのスポーツ教室

◆事務局

- ・ 1月に予定している作業所等連絡協議会向けの教室は平日開催で、作業所職員と一緒に参加する形を想定している。

◆障害者福祉関係団体（カンタービレ）

- ・ 土曜日の教室を個人参加の機会として位置付けた場合、移動支援等を利用して参加できる可能性がある。

◆府中市スポーツタウン推進課

- ・ 対象を広げた場合、何人程度まで一緒に指導できるか伺いたい。

◆F C 東京

- ・ 障害のある参加者にコーチの目が届く範囲を考えると、20人から25人程度ではないか。コーチ3人程度で対応するイメージである。

◆事務局

- ・ 対象年齢の拡大は来年度に向けて検討する。今年度は残り2回について、中高生への周知に努める。
- ・ 9月の教室では、参加者、ボランティア及び市職員も一緒に活動した。人数が多い方が試合形式を取り入れやすく、教室としても盛り上がったため、引き続き参加者の確保に努めながら様子を見る。

4 その他

◆事務局

- ・ 本日の意見を整理し、今後の事業及び障スポ Connect での検討につなげる。追加確認が必要な場合は、各団体へ個別に相談する。

◆障害者福祉関係団体（ケアチーム大芽）

- ・ 1月開催予定の作業所向けサッカー教室について、確定した日程を案内してよいか。

◆事務局

- ・ 日程の案内は可能である。今後、作業所等連絡協議会向けに案内を送付する。
- ・ 次回は令和9年3月頃の開催を予定している。開催形式について、オンライン中心とするか、今回と同じハイブリッド形式とするか意見を伺いたい。

◆障害者福祉関係団体（ケアチーム大芽）

- ・ オンライン参加が可能である一方、対面の方が意見交換しやすい面もあるため、ハイブリッド形式を継続でもよい。

◆事務局

- ・ 次回も会議室とオンラインのハイブリッド形式とし、業務に無理のない範囲でオンライン参加も可能とする。